
■■■ 福祉社会学会ニューズレター第19号 ■■■

Japan Welfare Sociology Association Newsletter No.19

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jwsa/>

E-mail: ws@univcoop.or.jp

*メール・郵送での配信で「18号」となっていますが、正しくは「19号」
でした。お詫び申し上げます。(学会事務局)

***** INDEX *****

■事務局からのお願いとお知らせ

■大会関係

【第7回大会】第7回大会が開催されました。

【総会関連】総会では、奥山正司議長が選出され、会計報告、活動方針、
予算、理事選挙結果報告、新役員構成、会費値上げなどが承認されました。
新会長には武川正吾先生（東京大学）が選出されました。

【第8回大会】第8回大会は2010年6月に九州大学にて開催予定です。

■会長挨拶

■『福祉社会学研究』第6号発刊と第7号の投稿募集（編集委員会）

【原稿募集】第7号の原稿を募集しています。締切は9月10日（消印有
効）です。

■理事会報告

■新入会員など紹介

■事務局からのお願いとお知らせ

▼お願い

住所変更やEmailのアドレスを変更した場合は、必ず大学生協・学会支援セ
ンター・福祉社会学会担当宛（学会のメールアドレス先）お知らせください。
年度末に毎回十数通の不着が発生します。周辺でNewsletterを受信できてい
ない方がいる場合は学会アドレスまで、ご連絡くださいますようお願いいた
します。

▼お知らせ

6月大会総会にて新役員構成が承認されました。これを受けて、学会事務
局所在地が以下のように変更になります。ご注意ください。

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 山梨大学教育人間科学部

■大会関係

【第7回大会】 第7回大会が去る09年6月6日（土）、7日（日）に日本福祉大学名古屋キャンパスにて、盛況のうちに開催されました。参加者は220名でした。

【総会関連】 初日の午前中に理事会が開催され、諸案件について承認・決定されました。これを受けて、2日目午後には総会が開催されました。総会では、奥山正司会員（東京経済大学）を議長に選出ののち、庶務理事から、08年度決算案と監査報告、09年度活動方針案、09年度予算案、選挙管理委員会報告、新役員構成、会費値上げとそれに伴う会則変更が提案され、原案どおり承認されました。また、新会長に選出された武川正吾先生からご挨拶がありました。

▼総会での報告・承認事項（一部省略）

●2009年度活動方針

1. 福祉社会学会は、これまで同様に、福祉（welfare, well-being）や社会政策の社会学に関心を持つ研究者中心の学術団体として活動していきます。
2. 第7回大会を、2009年6月上旬に日本福祉大学で開催します。2010年度開催の第8回大会についても、その準備を進めていきます。
3. 機関誌『福祉社会学研究』の第7号の年度内刊行をめざして、編集作業を進めていきます。
4. 大会に加えて、国際交流も含めた多様な研究交流活動に積極的に取り組みます。昨年度は研究会を年6回開催しましたが、今年度も研究会活動の活性化をはかっていきます。
5. 日本学術会議の協力学術研究団体として、いっそう他の学術団体との連携につとめていきます。
6. WebやEmailを活用し、事務の外部委託による効率化などによって、会員

への情報・サービス提供の充実と事務作業の簡便化を進めるとともに、確実な情報提供につとめていきます。

●福祉社会学会・第4期役員構成（案）

（2009年大会後～2011年大会時まで）

会長 武川正吾（東京大学）
副会長 藤村正之（上智大学）
庶務理事 三重野卓（山梨大学）
編集委員長 稲葉昭英（首都大学東京）
研究委員長 山田昌弘（中央大学）

理事（50音順）

稲葉昭英（首都大学東京） 後藤澄江（日本福祉大学）
小林良二（東洋大学） 鎮目真人（立命館大学）
鐘家新（明治大学） 白波瀬佐和子（東京大学）
高野和良（山口県立大学） 武川正吾（東京大学）
立岩真也（立命館大学） 永井彰（東北大学）
平岡公一（お茶の水女子大学） 藤村正之（上智大学）
牧里毎治（関西学院大学） 三重野卓（山梨大学）
山田昌弘（中央大学）

監事 染谷淑子（東京女子大学） 下平好博（明星大学）

顧問 副田義也（金城学院大学）

●会費値上げ（2010年会計年度より適用）と会則等変更

①会則変更 [2010年会計年度より適用]

旧規定 第19条（年会費） 会員の会費は、年額5,000円とする。

新規定 第19条（年会費） 会員の会費は、年額7,000円（学生は5,000円）

とする。なお、常勤職にない会員に対しては、「常勤職にない会員の会費減額規程」にもとづき、当人の申告によって、会費を減額することができる。

②常勤職にない会員の会費減額規程

[09年12月理事会にて承認予定]

1. 福祉社会学会会則第19条にもとづき、常勤職にない会員は、会計年度ごとに、所定の申請用紙にて会費の減額を申請することができる。
2. 本規則のいう常勤職にない会員には、日本学術振興会特別研究員等は、含まれないものとする。
3. 会費の減額を承認された会員については、会費は5,000円とする。
4. 承認の可否については、福祉社会学会事務局から会員本人に通知する。
5. 申請から承認の可否が通知されるまでの期間は、当該年度の会費の納入が

猶予される。

【第8回大会のお知らせ】 福祉社会学会第8回大会は、2010年6月（予定）に、九州大学で開催されることになりました。詳細は決まり次第、Newsletter及びホームページでお知らせします。

■会長挨拶

福祉社会学会会長（2009-2011）の就任にあたって

2009/06/23

福祉社会学会会長 武川正吾

福祉社会学会は、2003年6月28日に第1回大会を立教大学において開催して以来、すでに6年の歳月が流れました。2002年秋に学会創立を準備するための会合が開かれてからは6年半以上が経過しております。この間、副田義也会長、庄司洋子会長の下で本学会は着実な発展を遂げ、日本の社会学界のなかに福祉社会学という研究分野を確立することに成功しました。社会学系コンソーシアムのなかでは連字符社会学の学会の一つとして重要な役割を果たしております。教員人事の募集のさいに福祉社会学を専攻する者が求められる機会が増えてきました。大学の社会学のカリキュラムのなかに福祉社会学という授業科目を置いている大学も増えました。

私は第7回総会で2009-2011年までの会長に選出されましたが、これからの二年間は、以上の成果を踏まえ、いたずらに会員数の量的拡大に走ることなく、会員の研究の質的な水準の向上をはかるための努力を行っていきたくと考えています。総会で採択された活動方針にもとづき、任期中は、以下の仕事に力を注ぐつもりです。

1 研究の質の向上 学会活動の二本柱は①大会・研究会と②学会誌であり、これらのいっそうの充実をはかることこそが学会の第一の使命です。しかしこれらに加えて以下の点についても注意を払いたくと思います。(1) 若手研究者のスキルアップのためのセミナー（質的調査法、量的調査法、その他）を適宜開催したいと思います。(2) また学会賞を創設して、学会の研究水準を内外に示すとともに、若手会員の研究を奨励していきたく考えます。(3) さらに福祉社会学の研究成果を世に問うための努力も続けてまいります。

以上のような研究の質の向上を組織的に支えるために、以下の点についての改革も行う予定です。

2 規程類の整備 学会創立後すでに6年が経過し、当初想定していなかつ

たような事態も発生して、規定の不備が明らかとなったところもあります。これらの改善をはかります。また、現在、本学会には倫理綱領がありませんが、これも早急に整備したいと思います。

3 財政の安定化 学会活動は財政的な安定のうえに築かれます。残念ながら、本学会はここ数年単年度収支が赤字という状態が続いております。この赤字を解消するため、総合的な観点からの努力をしていく所存です。

学会活動は会員の自発的な活動によって支えられています。私はこれからの2年間の任期を、以上のような方針で臨みたいと思っておりますが、それには会員のみなさまのご協力が欠かせません。改めて学会活動へのご協力をお願いする次第です。

■ 『福祉社会学研究』第6号発刊と第7号の投稿募集 (編集委員会)

▼ 『福祉社会学研究』第6号(Journal of Welfare Sociology, No.6)が刊行されました (ISBN978-4-88713-921-3 C3036)。

目次は以下のとおりです。

特集：介護労働のグローバル化と介護の社会化

特集解題 介護労働のグローバル化と介護の社会化 (秋元美世)

東アジアにおけるケアの「家族化政策」と外国人労働者 (安里和晃)

介護現場がかかえる課題の現状—介護福祉士法の改正と介護労働の方向性—
(森山千賀子)

介護保険制度と介護の「社会化」「再家族化」 (藤崎宏子)

自由論文

ボランティア文化の変容に対応したボランティア支援の在り方—社会福祉協議会ボランティアセンターの取り組みを中心に— (高木寛之)

介護というコミュニケーション—関係の非対称性をめぐって (深田耕一郎)

第一次お産革命の再検討—第二次世界大戦以前における母子保健水準の改善に関する考察— (新道由記子)

パネルディスカッション報告

脱福祉国家政策における身体政治を考える—介護予防施策、健康政策における身体フィルドワークから— (二宮雅也)

書評

副田義也著『福祉社会学宣言』 (小林良二)

武川正吾著『連帯と承認 グローバル化と個人化のなかの福祉国家』 (副田

義也)

藤村正之著『〈生〉の社会学』(立岩真也)

立岩真也著『良い死』(進藤雄三)

安立清史著『福祉NPOの社会学』(牧里每治)

Ochiai Emiko& Molony Barbara ed, Asia's New Mothers: Crafting Gender Roles and Childcare Networks in East and Southeast Asian Societies

(山地久美子)

▼『福祉社会学研究』第7号の原稿募集について

下記要領で、自由投稿論文を募集します。投稿資格は本会会員に限ります。2009年度の加入者については、6月の大会時までに入会済みであることが条件となります。

なお、投稿規程が改定され(2009.3.31)、ファイルを電子メール添付で提出していただくことが可能になりました(論文の送付したいは必要ですので規定を確認ください)。

1. 論文の種類, 自由投稿論文

福祉社会学研究の学術論文とします。なお、投稿資格は、本会会員に限ります。

2. 掲載の可否

レフェリーの査読結果に基づき、編集委員会が決定します。

3. 締め切り

2009年9月10日(木曜日)(消印有効)

4. 論文の分量

20,000字以内とします。スペースは字数に含めません。

5. 投稿規程, 執筆要領

投稿規程, 執筆要領は必ず, ウェブサイト等で確認してください(投稿規程は本年3月に改正されています)。論文の分量が超過するなど, 執筆要項が守られていない場合には, 投稿論文を受け付けません。

6. 自由投稿論文提出先, 問い合わせ先

投稿原稿は, 郵送(差出日が記載されるものであれば, 宅急便等でも可, ファイルは電子メールによる送付も可)により, 以下まで提出してください。直接持参して提出することはできません。提出先や提出方法を間違えた場合,

投稿論文を受け付けないこともあります。

〒192-0397 八王子市南大沢 1-1 首都大学東京人文社会系稲葉昭英研究室内
福祉社会学会編集委員会事務局（メールアドレス inapa@tmu.ac.jp）

■理事会報告

●福祉社会学会・2009年度第1回理事会（新旧合同）議事録

日時：2009年6月6日（土）10:00～12:00

場所：日本福祉大学名古屋キャンパス・北館7A

出席者：庄司洋子，安立清史，稲葉昭英，上野加代子，後藤澄江，小林良二，白波瀬佐和子，杉岡直人，須田木綿子，高野和良，野口裕二，牧里每治，山田昌弘，田淵六郎，鎮目真人，鐘家新，武川正吾，立岩真也，永井彰，平岡公一，藤村正之，三重野卓（22名）

●報告事項・審議事項

0.新旧理事紹介

- ・新旧理事より自己紹介が行われた。

1.第7回大会運営に関して（開催校からの報告／総会運営について）

- ・実行委員長の後藤理事より大会運営に関する報告があった。
- ・庶務理事より総会次第が提案され，承認された。

2.委員会報告・引継事項など

(1)研究委員会…委員長より今年度大会の企画ならびに2008年度の研究会成果について報告された。09年3月に東洋大学で開催されたワークショップに多くの聴衆が集まったことから，若手研究者のニーズに応じた研究会・大会企画を重視することが引継事項として提案され，承認された。

(2)編集委員会…副委員長より学会誌第6号の投稿状況などについて報告された。投稿論文と類似論文のチェック体制の検討，電子ジャーナル化とそれに伴う規程整備が引継事項として提案され，承認された。

(3)事務局…庶務理事より，会費値上げが実施された場合は学生会員枠の設定と会費減額措置を設けること，実施されない場合は休会制度導入を検討すること，会長と理事の関連について規程類を整備すること，福祉系関連学会協議会への参加検討を継続することが引継事項として提案され，承認された。

3.08年度決算案の承認

- ・庶務理事より決算案が報告され，原案通り承認された。単年度収支の赤字が生じている原因をめぐって質疑応答があり，会費値上げを導入した場合でも学会誌刊行経費や大会開催補助費の見直しが必要であるという意見があっ

た。

4.09年度活動方針案・予算案の承認

- ・庶務理事より活動方針案が提案された。一部文案修正のうえ承認された。
- ・庶務理事より予算案が提案され、原案通り承認された。

5.生協との委託契約の継続承認

- ・庶務理事より業務委託費用について報告があり、委託契約継続が提案され、承認された。

6.各種学術交流の状況

- ・社会学系コンソーシアム・社会政策関連学会協議会について、準備理事会で担当委員が決定したことが報告され、承認された。

7.選挙管理委員会報告／新役員の構成について

- ・選挙管理委員会より理事当選者の報告があった。
- ・新理事及び役割分担案について原案通り承認され、総会に提案することとなった。また、新理事会より委員会構成について提案され、下記のように承認された（研究委員会については総会後の新理事会にて委員を追加承認）。

*編集委員会（8名）

委員長＝稲葉昭英（首都大学東京）

副委員長＝牧里每治（関西学院大学）

委員 岩田美香（法政大学）、岡部耕典（早稲田大学）、久木元真吾（家計経済研究所）、後藤澄江（日本福祉大学）、永井 彰（東北大学）、西下彰俊（東京経済大学）

*研究委員会（10名）

委員長＝山田昌弘（中央大学）

委員 金子雅彦（防衛医科大学校）、鎮目真人（立命館大学）、鐘 家新（明治大学）、須田木綿子（東洋大学）、高野和良（山口県立大学）、立岩真也（立命館大学）、土屋 葉（愛知大学）、新田雅子（札幌学院大学）、三井さよ（法政大学）

*社会学系コンソーシアム・評議員

須田木綿子（東洋大学）、平岡公一（お茶の水女子大学）

*社会政策関連学会協議会・協議員

金子雅彦（防衛医科大学校）、三重野卓（山梨大学）

*学会賞担当

小林良二（東洋大学）

*事務局

事務局長＝三重野卓（山梨大学）、

広報担当 神山英紀（帝京大学）（事務局次長）、財務担当 白波瀬佐和子（東京大学）

8.大会開催について

- ・2010年の第8回大会を九州大学（実行委員長＝安立清史会員）にて開催することが提案され、承認された。
- ・第9回大会の候補校について新理事会にて12月理事会まで検討することとなった。

9.新規入会者の承認／退会希望者・会費未納退会者の確認

- ・44名の入会，11名の退会（前回理事会以降，2名の会費未納退会者を含む）が承認された。
- ・5名の3年会費未納者を確認した。

10.会費値上げと会則変更について

- ・庶務理事より，会費値上げと会則変更について報告と提案があり，原案を総会に諮ることが承認された。

11.新理事会の開催日程…12月23日（水・休日）午後2時より開催予定。

■新入会員など紹介

（Web版では省略）

（*今号は郵送でもお送りしています。）

【発行・編集】

福祉社会学会事務局